

# 海外SDGs事業が生徒に与えた意識の変化と 教員としてのアクション

The change in awareness among students caused by overseas SDGs projects and actions as a teacher

交流と対話的学びから取り組むSDGs

Tackling SDGs Through Interaction and Dialogue-Oriented Learning

～若者意識の考察と改善～

～ Examining and Improving Awareness Among Young People ~

(日本)名古屋経済大学市邨高等学校 教諭 松野 至

(台湾)台湾国立鳳山商工高等学校 教諭 許智堯

# 本日の流れ



- プロジェクトの概要
- 平和の架け橋協働プロジェクトについて
- 実施体制について
- 教室と世界をつなぐ直近の活動事例1 ヨルダン
- 教室と世界をつなぐ直近の活動事例2 カンボジア
- 探究活動のSTEP
- カンボジア農村部（絶対的貧困地域）の教育支援
- パレスチナ・シリア難民女性支援（難民支援）
- 公開学習会、伝える活動
- パートナーシップ協定校での学びの共有
- 日本
- 台湾国立鳳山商工高等学校 教諭 許智堯からの報告
- 関連資料



はじめに

# はじめに | 1 | プロジェクトの概要

## 名古屋経済大学市邨高等学校（令和5年度応援プロジェクト）

### 交流と対話的学びから取り組む SDGs～若者意識の考察と改善～

#### 【台湾、韓国、カンボジア、ヨルダン、イスラエル】

本事業では日本・台湾・韓国の高校生が、専門家、  
地方公共団体や企業の協力を得て、<sup>手段として</sup> ICT を活用して  
世界の難民問題・貧困問題などとその解決を目指す  
<sup>国境を超えて一緒に</sup> 取組について **学び**、<sup>国境を超えて一緒に</sup> 支援活動にも実際に **参加** します。  
これらの活動を通じて、生徒の自己肯定感と共に国際  
平和への意識も高め、SDGs・ESD に貢献します。





# はじめに1-2 平和の架け橋パートナーシップ協定

## ～ユネスコ平和の架け橋協働プロジェクト～

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」(ユネスコ憲章前文)

### 【学びの4本柱】



(UNESCO, 1996. *Learning: the treasure within.* に基づきACCU作成)

ユネスコスクール公式ウェブサイト 文部科学省より

### プロジェクトのSDGs貢献内容

**難民支援**  
 現在の戦争や紛争

**貧困支援**  
 過去の内戦の影響  
 現在の貧困

**地球市民**  
 平和の砦を築く



第6回  
名古屋経済大学市邨高等学校

### 国境を超えて学びを共有 平和な世界を目指すゼミ活動

連携で地球課題の解決を目指す

本連載では、国際協力に取り組む全国の高校生の活動を紹介します。国際協力の未来を担うかもしれない高校生たちと、それを支える先生や学校取材した。



台湾のパートナー協定校の生徒のみなさんと松野先生  
=2023年3月、台湾国立鳳山商工高校にて

#### 名古屋経済大学市邨高等学校の取り組み

- ユネスコ平和の架け橋プロジェクトを実施
- パートナー校、企業や国際支援の専門家らと連携
- UNHCRに難民・貧困問題解決のアクションを宣言

#### 生徒主体の国際支援活動

名古屋経済大学市邨高等学校の松野至先生のゼミでは、生徒らが主体的に考え、学びを共有しウェルビーイングの実現に向けて、さまざまな国際支援に取り組む。

「2023 平和の架け橋 (ユネスコ活動) 協働プロジェクト」では、台湾の国立鳳山商工高校、埼玉県立越谷北高校とパートナーシップ協定を結び、企業や専門家と交えての合同勉強会や国際支援活動を継続的に実施。2023年5月にはユニクロなどを展開する株式会社ファーストリテイリングと国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) が取り組む難民支援プロジェクトの一環で出前授業を受けた。パートナー校もオンラインでつないで英語で行われた授業では、服不足に悩む難民の現状を学んだ。その

後、学習会などを経て校内外で難民の子ども向けの古着を集め、「服のチカラアワード」では発表も行った。これらの活動は、日本型教育の海外展開推進事業「文科省のEDU-Port ニッポン」の応援プロジェクトに採択された。

#### やりがいは、つながる実感

4年に一度、難民支援の担い手が一堂に会するグローバルフォーラムにて、同校はUNHCRに宣言(プレッジ)を提出。情報通信技術 (ICT) を活用した双方向型の対話的な学びを通じて、国境を超えて平和を考え、難民や貧困問題に取り組んでいることや、生徒自身が持続可能な開発目標 (SDGs) の各項目に横断的に取り組み、自己肯定感を高め、未来を切りひらき能力を開発する機会を創出すると宣言した。

「ゼミ活動で感じている課題は、人々の国際支援への関心の薄さ」と語るのは山崎陽さん (2年)。支援金を集める募金活動のとき、一部の人の心無い言葉を聞いた。それに胸を痛めた経験が今も世界で続く戦争や貧困問題についてより多くの人に理解してもらいたいという強い思いにつながったという。「自分の行動が、誰かの前向きな気持ちや明るい未来につながっているという実感がやりがい。また、世界の現状をオンライン中継や会話、映画鑑賞などで目の当たりにして、広い視野を持つことができたと感じている。戦争のない平和な世界、誰もが安心して暮らせる地球を実現できるようこれからも活動を続けていきたい」と山崎さんは話す。将来の夢は幼稚園教諭で、いずれ社会に出る子どもたちが愛情をたくさん受けて育ち、世界をよくしていくことを希望している。松野先生は「これからも生徒たちと一緒に世界の現状を学び、一緒に地球市民として考え、心をつなぎながら国際支援に取り組んでいきたい」と語った。

# はじめに1-3 実施体制 ~教室と世界をつなぐ~









## はじめに1-5

### 教室と世界を繋ぐ事例(平和学習・難民)



a ガザの現状についての報告(ZOOM画面)



b UNRWA清田氏から学ぶ生徒の様子(いちむら高校)

## 教室と世界を繋ぐ事例2 (平和学習・貧困)

ESDコンソーシアム愛知主催ユネスコスクールESD・SDGs活動成果発表会2024.3  
～市邨高校報告～



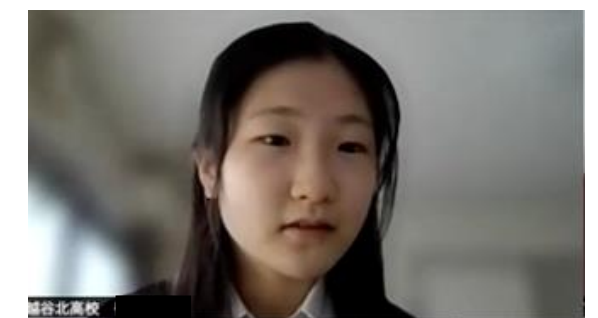
c コンソーシアム愛知会場の様子



f (台湾)国立鳳山商工高校



d (カンボジア)市邨高校卒業生によるレポート



g (日本)埼玉県立越谷北高校

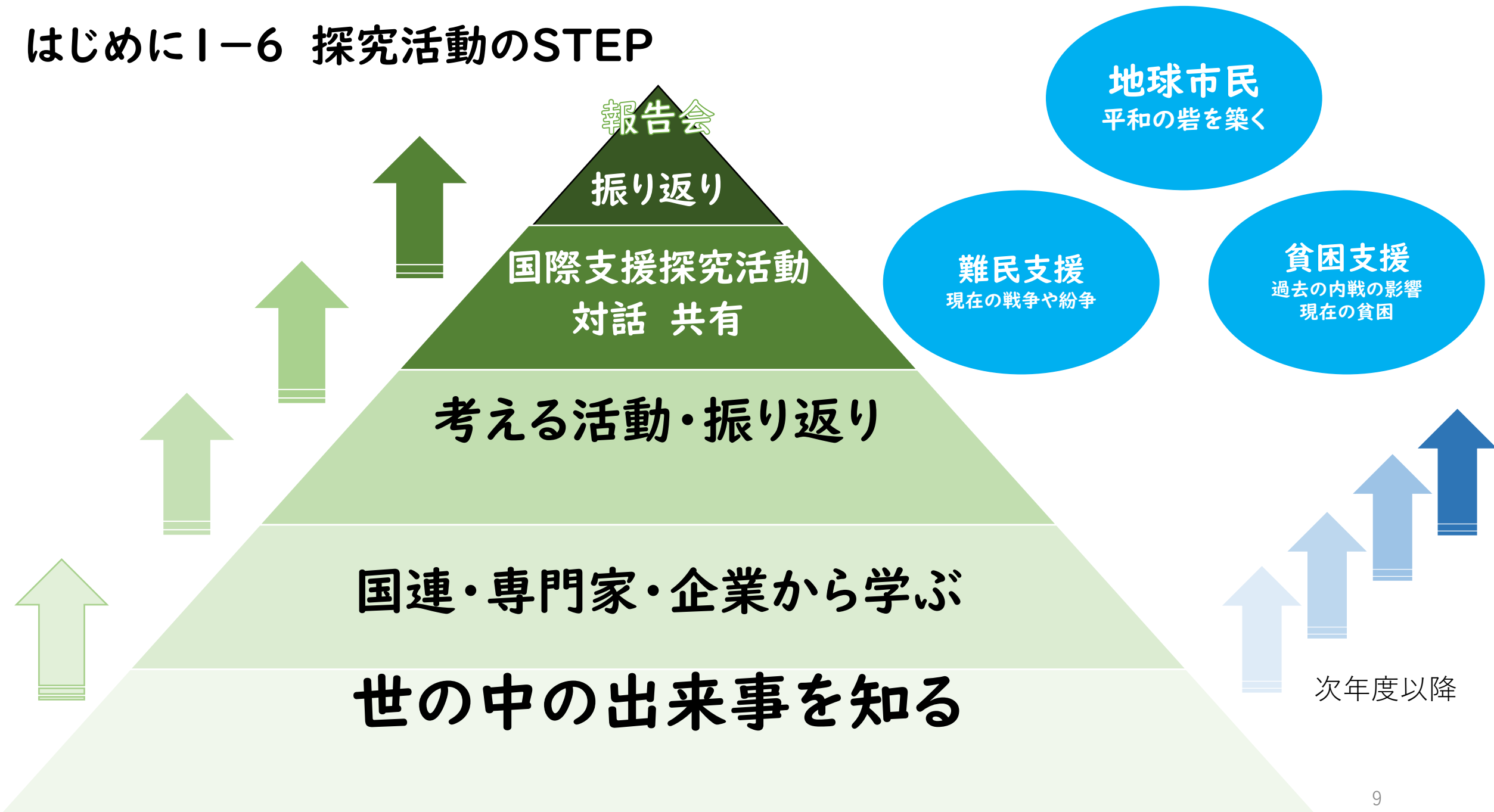


e (カンボジア)市邨高校教諭松野レポート



h (カンボジア)NPO代表加藤大地氏 講義

# はじめに1-6 探究活動のSTEP







国際支援

1

# カンボジア絶対的貧困地域 教育（公立小学校）支援



台湾で実施 文化祭でのチャリティー活動



日本で実施 地域の夏祭りチャリティー活動



公立小学校の子どもたち



カンボジアシェムリアップ州 絶対的貧困地域 公立小学校 手洗い場



# 1-1 2019 井戸改修・ブランコ寄贈・子ども服支援

～就学率増加プロジェクト～ 「対話」「現場の声」「生徒の気づき」「国際支援」



a



Collaborative poverty support with NGO~  
Charity activities for playground and well equipment in Cambodia~

b

現地の工場にて作られるブランコの制作補助



Collaborative poverty support with NGO ~Department of Education in Cambodia~

d

教育省からの感謝状



Collaborative poverty support with NGO  
~Donation for playground and well equipment in Cambodia.

c

寄贈されたブランコで遊ぶ子どもたち



Collaborative poverty support with NGO  
~Donation for playground and well equipment in Cambodia.

e

世界の子どもたちをつなぐ 2019



## 1-2 ブランコで遊ぶ子どもたち（ビデオ資料 2019年8月実績）





# 1-3 2020 ~ マスク支援1年目・継続した学習会実施 ~ 貧困地域の学生支援 ~ 「予測不可能な未来」「挑戦」「連携」



a



c



b



d



# 1-4 2021 ~ マスク支援2年目 2023~ 手洗い場寄贈

～絶対的貧困地域の公立小学校支援～

(第3種郵便物認可)

**名経大市邨高生の有志呼び掛け**  
**カンボジアへマスク3万枚**



名経大市邨高校 SDG&有志ボランティア  
 甲野同校 SDG&有志ボランティア

「Sustainable Development Goals」の達成に向けて、SDG1「貧乏をなくす」をテーマに、カンボジアへマスク3万枚を寄贈しました。今年もマスクを募ったところ、昨年の十倍に当たる三万枚超が寄せられました。今月二日までに全て現地へ送ったメンバーは「ご協力を感謝しています」と喜んでいました。(小松原康平)

**昨年の10倍 「協力感謝」**

（国連の持続可能な開発目標）を冠した国際ボランティアグループで、「二三年の約十人。マスク支援に乗り出したのは、世界的流行が始まった昨年春だった。貧困世帯が集中するカンボジア農村部で教育支援を続ける日本人男性とのオンライン勉強会がきっかけ。住民の多くが経済的理由でマスクを手でできないのを知り、学校内外で協力を呼び掛けた。二、三千枚超が集まった。今春の勉強会での「住民は一日一円で生活しているのに、不織布マスクは十枚で百円。生活を圧迫し続けている」との男性の声を受け、活動を再開。十月に常滑市の県国際展会場であった「SDG& AICH I EXPO」などでも支援を訴えたいがあり、全国各地から布マスク一万枚超、不織布マスク一万枚超が寄せられた。

SDG&有志メンバーのイベントは、午前十時と午後一時半の二回。小学生以下の子どもを対象に先着各二十人を受け付ける。カンボジアとオンラインで結び、勉強会の日本人男性が現地の農村部に建設した幼稚園の園児たちとの交流を楽しんでもらう。



b 手洗い場を建設する村の青年



d 手洗い場を寄贈したが学校や企業



c 寄贈した手洗い場の前で子どもたちと一緒に



e カンボジアシェムリアップ州教育省からの感謝状

2021年11月12日(金) 中日新聞 朝刊掲載

a



## 1-5 寄贈した鉄棒 (ビデオ資料 2024年8月実績)





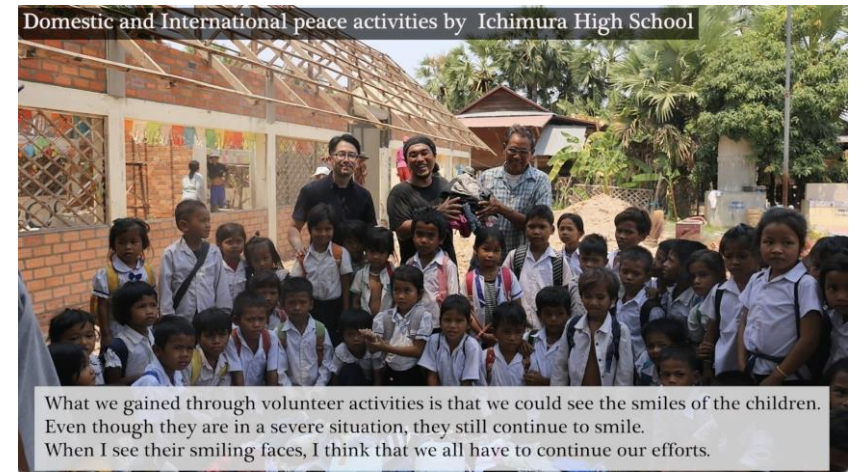
## 1-6 現地の学校の様子と専門家と教員の公立小学校支援活動



a 改修工事が完了した校舎に机を運ぶ先生と生徒たち



b 公立小学校改修ボランティア参加の様子



What we gained through volunteer activities is that we could see the smiles of the children. Even though they are in a severe situation, they still continue to smile. When I see their smiling faces, I think that we all have to continue our efforts.

c 日本の高校生保護者・企業の方からの子ども服



# 2

## パレスチナ・シリア難民女性支援活動

難民支援 (UNHCR UNRWA 企業 専門家との連携)



パレスチナの現状を学び、国連UNRWA基金・チャリティー支援に取り組む



ヨルダンに逃れた、シリア難民女性・パレスチナ難民女性に届いた横断幕



台湾と日本 UNRWA募金活動



難民女性への横断幕を作成



フェアトレード購入に参加した台湾・日本の高校生による、横断幕作成



## 2-1 パレスチナ・シリア難民女性支援活動 難民支援 (UNHCR UNRWA 企業 専門家との連携)

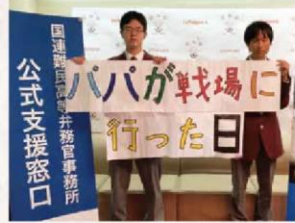
**教室を飛び出した支援活動 生徒も保護者も得難い社会体験**

文化祭後、生徒たちから「もっと難民支援に貢献したい」と声が上がります。松野先生と生徒たちの活動はクラスや学年の壁を越え、保護者も巻き込み、教室の外へと発展していきました。それは自分たちが住む街の住民の方々にも、難民問題に関心を持ってもらうという取り組みへと実を結び、秋の文化祭で発表した自主製作映画を一般上映する「市都高等学校難民支援の夕べ」の開催となりました。また、松野先生はデザイナーの立場からヨルダン難民の経済自立支援をめざす林芽衣氏にこの計画への協力を依頼し、ヨルダン難民自身が製作した衣料品や雑貨（ブランド名「TRIBALGY」）も含めたチャリティーバザーを開催することとなりました。

公民の授業から一歩ずつ、国際社会に踏み込んだ一連の取り組みについて松野先生は「国際問題への理解が深まったことで、継続的に難民支援活動をしていくことにつながり、かけがえない経験をさせていたただいておきます。これからも学びに終わりはなく、生徒・保護者とともに、前を向いて歩いていきたいと思えます」と感想を述べられました。

■名古屋経済大学市都高等学校の難民支援に関する取り組み

実施年月	主な取り組み	備考
2018年7月	中東ヨルダン外務省一等書記官岡本氏との対話	ヨルダンと教室をLINEでつなぎ、難民事情を伺った
8月	ヨルダン難民キャンプへ物資支援	外務省、国連UNRWA、林芽衣氏、現地支援者らが連携
8-9月	国連UNHCR協会天沼耕平氏による遠隔授業	2回にわたり難民支援の理解を目的に行われた
10月	文化祭「難民について考える」発表	3つのグループに分かれて取り組む ●最新のニュースやニュース時事能力検定テキスト、教科書を活用し伝えるグループ ●UNHCR難民映画祭2018に参加し、映画を活用し伝えるグループ ●ジャーナリストの書籍などを活用し伝えるグループ
12月	ヨルダンのデザイナー林芽衣氏との交流会	難民問題についての質問会（保護者も参加）と校内でチャリティーバザーを開催
2019年3月	第1回「市都高等学校難民支援の夕べ」開催 イラクへの寄せ書き作成	自主製作映画上映会（文化祭で製作）と林芽衣さんとの交流会、チャリティーバザーを校外で開催 難民支援に手を上げた。保護者・生徒ボランティアが授業後に集結 校内にて募金活動実施
4月	国連UNHCR協会と連携した募金活動 国連UNHCR協会へ寄せ書きを届け、イラクへの派遣スタッフと対話 チャリティー模擬店実施	国連UNHCR協会と教室をスカイプで接続し、派遣スタッフへの質問会・勉強会を実施 南山大学で開催された私学フェスティバルにて、新たなボランティアメンバーも加わり、募金活動とチャリティー模擬店を実施
12月予定	第2回「市都高等学校難民支援の夕べ」開催	計画中



▲「UNHCR難民映画祭2018」に参加した生徒たち。



▲デザイナーの林芽衣氏がヨルダンから帰国。交流会で生徒たちとチャリティーバザーに参加。

**国連UNHCR協会からのお願い**

国連の難民援助活動にご協力をお願いします。皆さまのご寄付により、世界中の難民の方々の生活が支えられています。

■支援の一例

- 保護性の高い毛布14枚…………… 10,000円
- 調理器具セット8家族分…………… 15,000円
- 家族を守るテント1張…………… 60,000円

■ご寄付の方法

ゆうちょ銀行 ☎0120-540-732

※「教職員共済だより」(コード2903)を現物としてお送りいただけます。ゆうちょ銀行「払込取扱票」(手数料、振込金額)を必ずお送りください。

詳しくは、国連UNHCR協会ホームページ <https://www.japanforunhcr.org>

**6月20日「世界難民の日」に 全国15施設のモニュメントが国連ブルーに染まった!**

難民問題を多くの人々に知ってもらい、社会全体で支援に取り組む機会を高める活動を目的に、6月20日「世界難民の日」に全国15施設のモニュメントが国連カラーの「ブルー」に染まりました。

6月20日	6月20~22日
(北海道) さっぽろテレビ塔、函館・五稜郭タワー / (宮城) 仙台スカイキャンドル / (山形) 日和山公園・木造六角灯台 / (兵庫) 神戸ハーバーランド・モザイク大観覧車、明石海峡大橋 / (岡山) 岡山城 / (大分) 別府タワー / (長崎) 福佐山山頂観音塔	(福岡) 鐘ヶ江 / (茨城) 水戸芸術館 / (東京) 東京スカイツリー* / (山梨) 富士山レーダードーム / (富山) タワー111 / (愛知) ツインアーチ138

それでも 35  
ここにある ふるさと

### 主体的で対話的な授業の現場から③

今回は、公民の授業で取り上げた「難民問題」の学びがさまざまな難民支援活動に発展し、活動普及のための自主製作映画上映会を開催するに至った名古屋経済大学市都高等学校の事例を紹介します。

「難民支援のお力添えありがとうございます！」

「一等書記官 義隆 終吉」

**国際問題をリアルに感じる 質の高い遠隔授業を企画**

名古屋経済大学市都高等学校の公民科では、ICTを活用した主権者教育に力を入れ、時事問題を題材に取り上げながら、社会の中で主体的な行動ができる力を育てています。特に、タブレット端末によるデジタル新聞購読やニュース時事能力検定受験、AIによる生徒集団の意思の可視化は、国際問題に取り組む有用なツールとなっています。

このような教育方針を背景に、社会科を担当する松野至先生と担任クラスの生徒たちは、2018年8月にヨルダン難民キャンプへの物資支援に挑戦しました。松野先生は挑戦にあたり、外務省のヨルダン駐在書記官と教室をLINEでつなぎ、難民事情や支援のあり方についてレクチャーを受ける機会を設けました。海外と教室をつなぐというアクティブラーニングの創造は、生徒たちを刺激し、自発的な考えや質問を誘発させることにつながりました。

その後、国連UNHCR協会の協力を得て、難民支援の理解を深める遠隔授業を行い、秋の文化祭では、生徒たちによる「難民について考える」と題した発表が行われました。発表は調査・分析する媒体で3つのグループに分かれ、ニュースや報道からコンテンツを考え、クルー









## 2-3 難民支援活動 (UNHCR UNRWA 企業 専門家との連携)



a シリア・パレスチナ難民女性支援活動



c チャリティー活動・募金活動に取り組む高校生



b シリア・パレスチナ難民女性支援活動2023.9 (愛知県補助)



d UNRWA支援 2024.6 愛知県久屋大通公園



# 3

## 難民支援、貧困支援について 専門家の方々から学ぶ合同公開学習会・伝える活動

2024年3月6日 中日新聞朝刊掲載



### 難民支援の歩みを報告

カンボジアやシリアなどの難民支援に取り組む名経大市郷高校（千種区）の生徒らが活動について報告する「市郷高校難民支援のタペ」が2日、中村区名駅4のウイックあいちで開かれた。

同校が主催する台湾の高校や埼玉県熊谷市の越谷北高校とオンラインで2023年度からカリキュラムの1環で始まったユネスコセミナーの生徒らは、地元商店街の祭りで綿菓子作り、その売上金5万円を難民支援に寄付、台湾の高校生も文化祭で舞臺、同報を集めた。

市郷高校では生徒有志が

### 名経大市郷高生、カンボジアで活動も

### 台湾の高校などとオンラインで意見交換

19年ごろから、カンボジアの学校にボランティアの手洗い場を作るなどして難民支援に力を入れてきた。ユネスコセミナーに所属する名経大市郷高校（千種区）の生徒らは、活動の幅を広げていきたい」と意気込みだ。

報告会には、アフリカのサハラ砂漠南部に広がるサヘル地域などで、都市部で捨てられたゴミを再利用した緑化活動を展開して土壌の改善や食糧の増産に取り組む京都大の大山修一教授も参加。一人は不肖だが、支援の重要性を訴え

（森本尚平）



b AICHI SDGs EXPOにて伝える活動



c シェムリアップとの中継・合同公開学習



d 朝日新聞 2023年6月20日

a UNHCR難民映画祭 公開学習会



### 3-1 難民支援、貧困支援について 専門家の方々から学ぶ合同公開学習会・伝える活動



#### a 名古屋市と連携した国際支援

2023年2月3日(金) 第5回市邨高校難民支援のタベ

高学年による SDGs グローバル対談

YouTube LIVE START PM 6:00 ~ PM 7:00  
見逃し配信 2週間程度

お申し込みと質問はこちらへ！  
メールアドレスをご登録ください。  
YouTube アドレスをお知らせします。

<https://forms.office.com/r/X3Z6VFv74>



講師 SUKAGAWA HIROSHI 先生



場所 オンライン(無料) ※YouTube LIVE 配信  
主催 市邨(いちむら)高等学校 SDGs有志(担当 社会科 松野 至)  
協力 市邨(いちむら)学園 市邨(いちむら)高校ユネスコ委員会  
市邨高校インターアクトクラブ  
後援 愛知県教育委員会 名古屋市 独立行政法人 国際協力機構

SDGs有志HP  
<https://ichimura.ed.jp/refugee-assistance-activity-by-the-high-school-student/>

#### b 専門家からの合同公開学習会



高校生によるSDGsグローバル対談 2022年8月10日  
限定公開  
115回視聴・8日前に配信済み



高校生によるSDGsグローバル対談 2022年8月10日  
限定公開  
115回視聴・8日前に配信済み

#### c 貧困地域の公立小学校からのYouTube配信

名古屋経済大市邨高校(千種区)の生徒有志らが21日夕、ロシアの侵攻が続くウクライナの首都キーウで記者として取材活動をする寺島朝海さん(22)から、ビデオ会議システムで話を聞いた。寺島さんは「ウクライナは日本から8000キロとすごく遠いけど、この戦争のことを知ってもらえたらと思う」と訴えた。(小松原康平)

戦禍のウクライナの人たちを支援しようと、一部生徒でつくる「SDGs(持続可能な開発目標)有志メンバー」が三月中旬から、主に栄で募金活動を始めた。それを知った系列の名経大(犬山市)が「学びの機会になれば」と、寺島さんを講師に四月に開いたオンラインセミナーの二回目への参加を呼び掛けた。寺島さんは大阪府出身で大学四年生。父親の仕事の関係で二〇〇七年にロシアの首都モスクワに引っ越し、一〇年からキーウに住んでいる。侵攻後も「現状を伝えたい」とキーウに残り、地元の英字オンラインメディア「キーウ・インデペンデント」に記事を書いている。同メンバーを中心に生徒ら七人が参加。寺島さんは写真や地図を交え「大好きなウクライナで亡くなっていく人を目にするのはつらい」と胸の内を明かした。それでも「世界の皆さんが戦争のことを忘れないよう目撃者になってほしい」と語りリポートしている。

SDGs有志メンバーは六月中旬まで集めた募金計八十六万三千五百三十六円を、国連UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)協会(東京)に寄付した。

この日は名経大近くの犬山南高校の生徒有志も参加した。

浅野さん(手前)の質問に答える寺島さん=千種区の名古屋経済大市邨高で

現状知る生の声聞きたい

ウクライナの痛みを思いを寄せて

2022年6月23日朝刊 中日新聞



# 4

## 国境を超えて 国際支援活動 パートナーシップ協定校 台湾・日本



2024.6 台湾国立鳳山商工高校 来日 裏千家茶道 浴衣体験交流会実施



両校の代表生徒による書道交流 平和宣言



台湾国立鳳山商工高校の皆さんの平和発表の様子



Bridging for Peace Global Conversation

2023.12 日本 いちむら高校 台湾訪問 平和交流会 文化交流会実施

※関連資料5、6にて補足



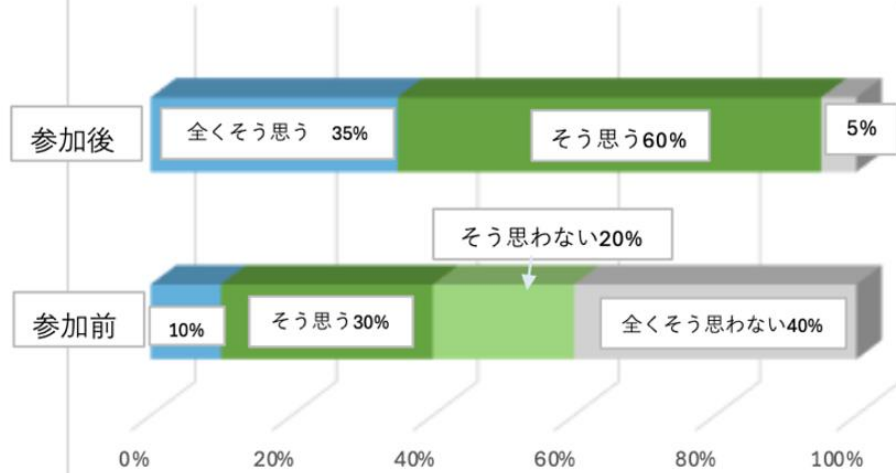




## 5-2 生徒の変容について (2024.2 市邨高校教諭山口作成)

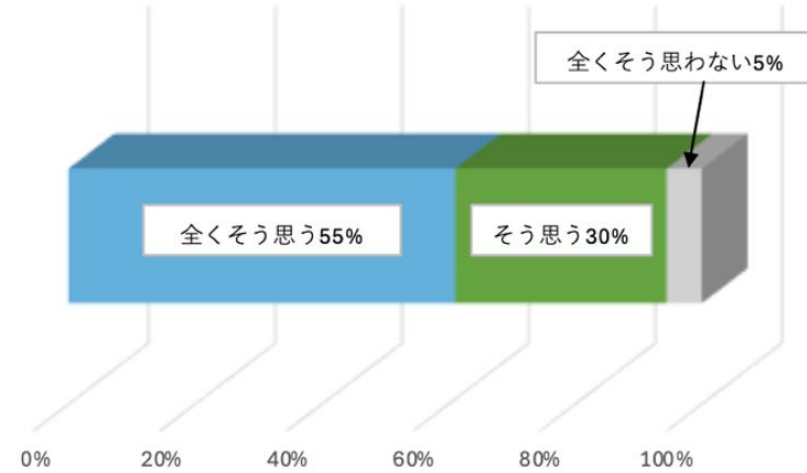
資料1 ←

国際問題の課題解決のために、「役に立っていると感じる」←



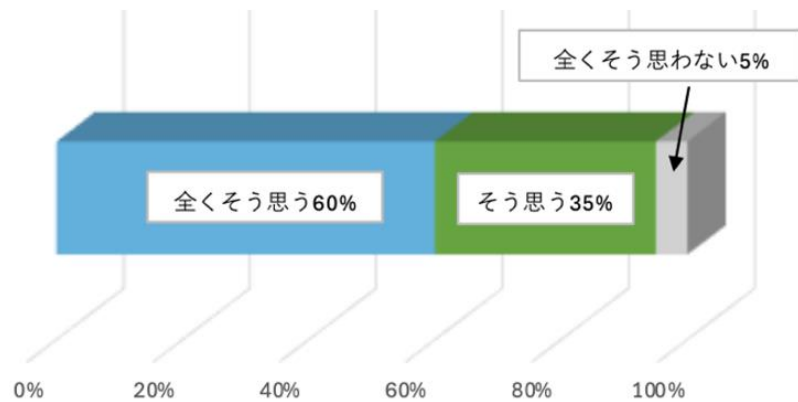
資料3 ←

世界の出来事に以前よりも関心をもつようになった←



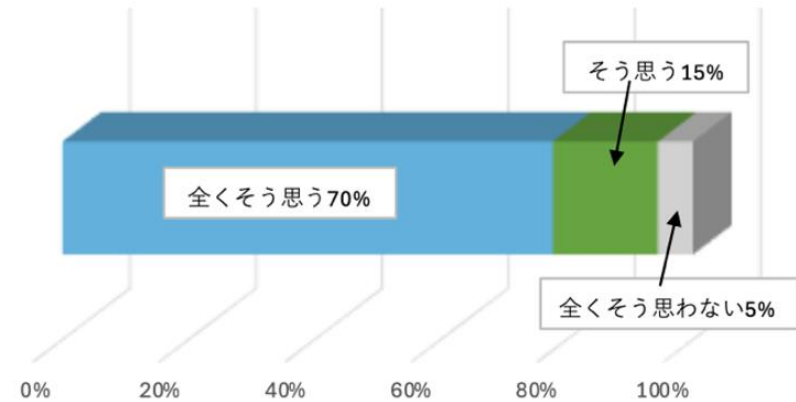
資料2 ←

今後も活動に取り組みたい←



資料4 ←

台湾への好感度は高まった←





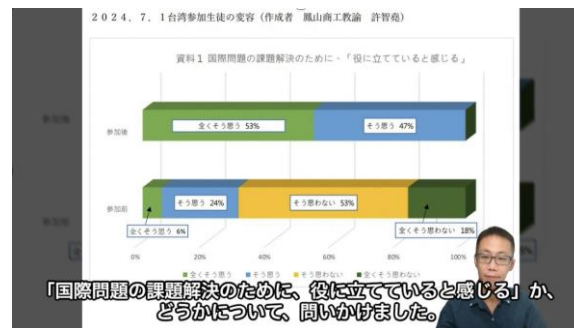
# 5-3 台湾の先生からのレポート（生徒の変容・事業の有用性について）



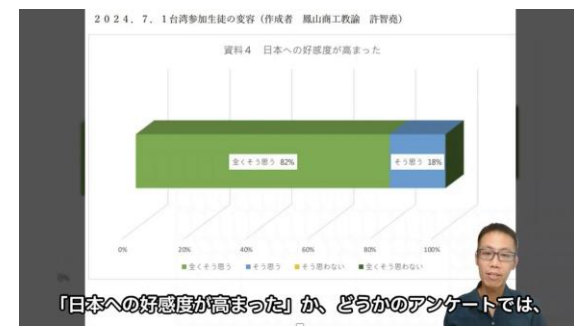
a



d



g



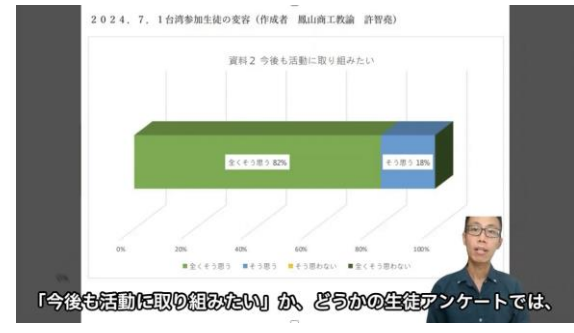
j



b



e



h



k



c



f



i



l



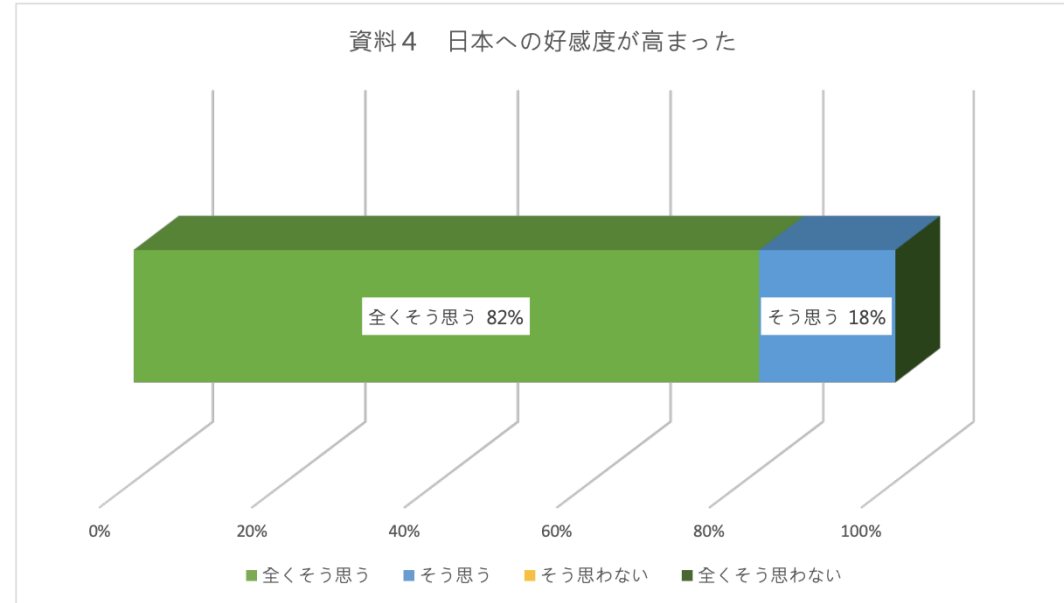
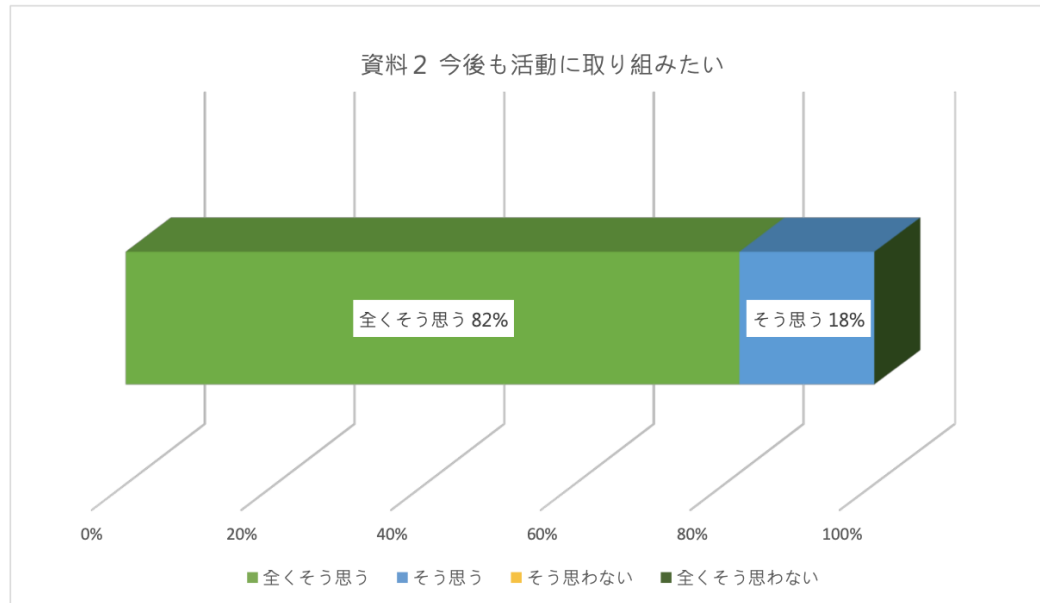
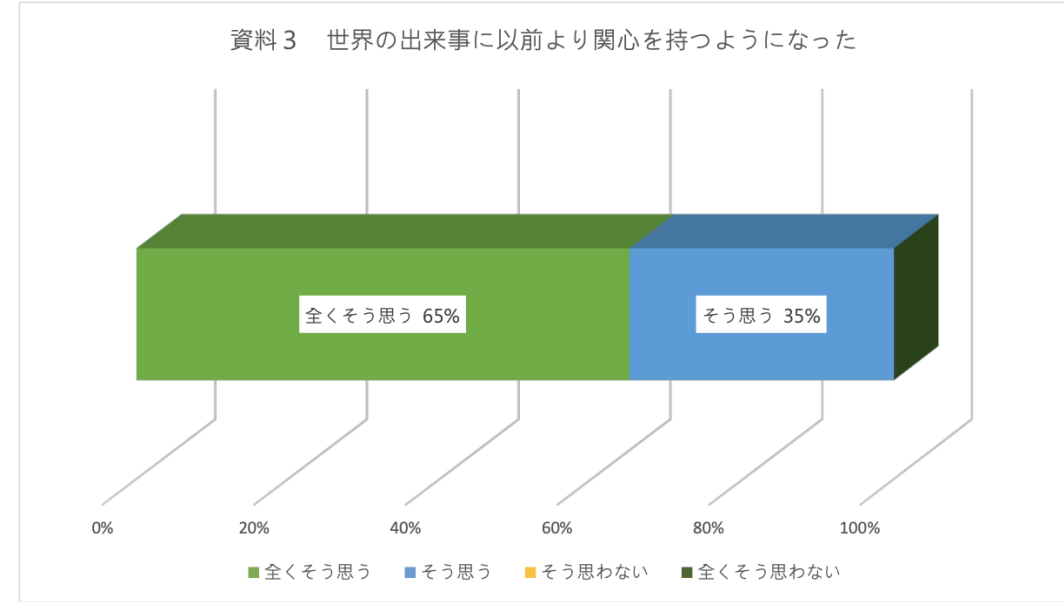
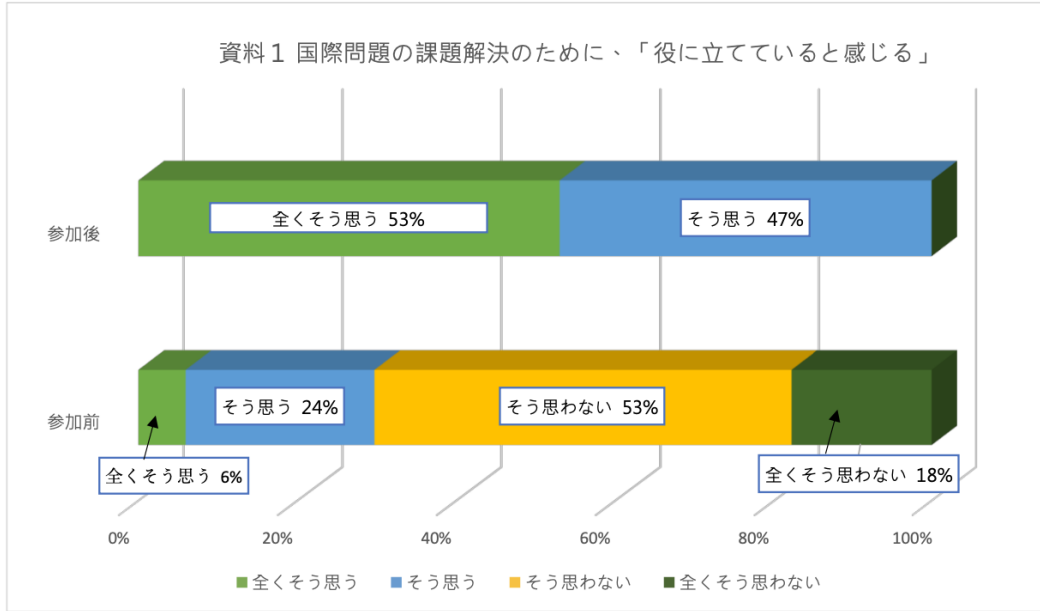
VREW



國立鳳山高級商工職業學校(鳳山商工)  
台灣83052高雄市鳳山區文衡路51號









さいごに



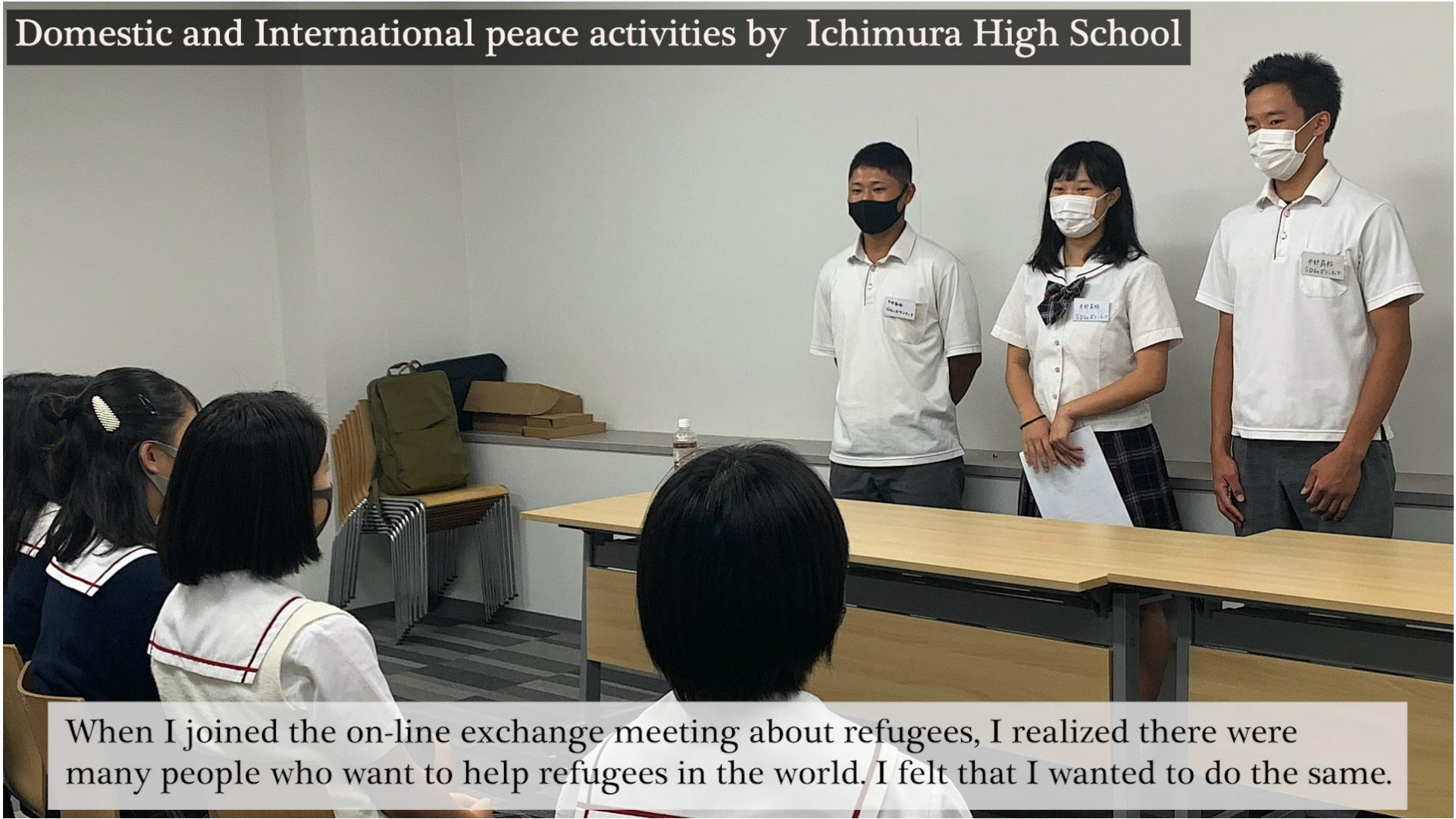
## 6-1 参加者インタビュー 動画1 男子生徒 女子生徒(0:45)





## 6-2 参加者インタビュー 動画2 女子生徒 男子生徒(1:07)

Domestic and International peace activities by Ichimura High School



When I joined the on-line exchange meeting about refugees, I realized there were many people who want to help refugees in the world. I felt that I wanted to do the same.





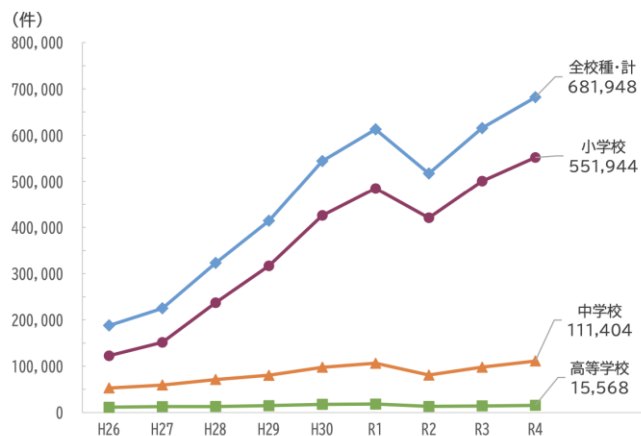


その他  
関連資料

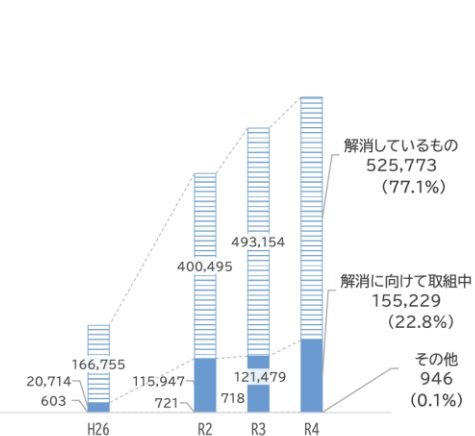
# その他関連資料 | 高等学校現場での課題 「冷やかしやからかい」

## いじめの状況について

### いじめの認知件数の推移



### いじめの解消状況の推移(各年度末時点)



年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
小学校	18.6	23.2	36.5	49.1	66.0	75.8	66.5	79.9	89.1
中学校	15.0	17.1	20.8	24.0	29.8	32.8	24.9	30.0	34.3
高等学校	3.2	3.6	3.7	4.3	5.2	5.4	4.0	4.4	4.9
特別支援学校	7.3	9.4	12.4	14.5	19.0	21.7	15.9	18.4	20.7
計	13.7	16.5	23.8	30.9	40.9	46.5	39.7	47.7	53.3

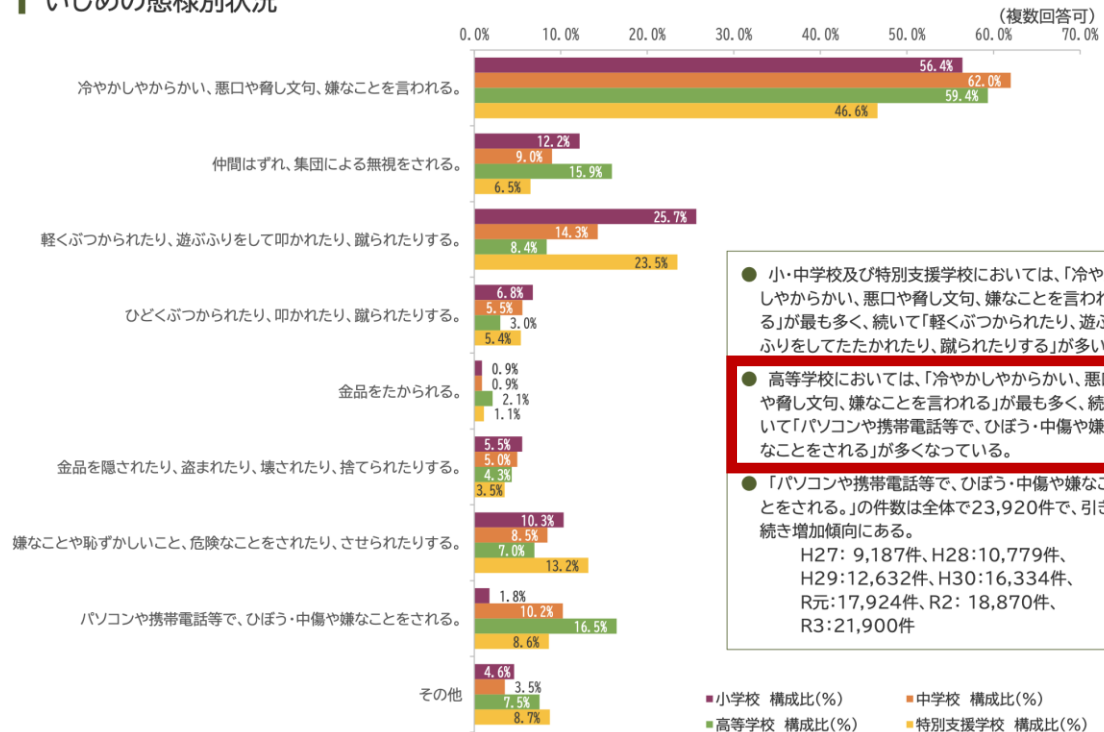
※ 上段は認知件数、下段は1,000人当たりの認知件数

- 小・中・高等学校及び特別支援学校におけるいじめの認知件数は**681,948件**(前年度615,351件)であり、前年度に比べ66,597件(10.8%)増加している。
- 児童生徒1,000人当たりの認知件数は53.3件(前年度47.7件)である。
- 年度末時点でのいじめの状況について、**解消しているものは525,773件(77.1%)**であった。

5

## いじめの態様別状況について

### いじめの態様別状況



- 小・中学校及び特別支援学校においては、「冷やかしやからかい, 悪口や脅し文句, 嫌なことを言われる」が最も多く, 続いて「軽くぶつかわれたり, 遊ぶふりをしてたたかれたり, 蹴られたりする」が多い。
- **高等学校においては、「冷やかしやからかい, 悪口や脅し文句, 嫌なことを言われる」が最も多く, 続いて「パソコンや携帯電話等で, ひぼう・中傷や嫌なことをされる」が多くなっている。**
- 「パソコンや携帯電話等で, ひぼう・中傷や嫌なことをされる。」の件数は全体で23,920件で, 引き続き増加傾向にある。  
H27: 9,187件, H28:10,779件, H29:12,632件, H30:16,334件, R元:17,924件, R2: 18,870件, R3:21,900件

9

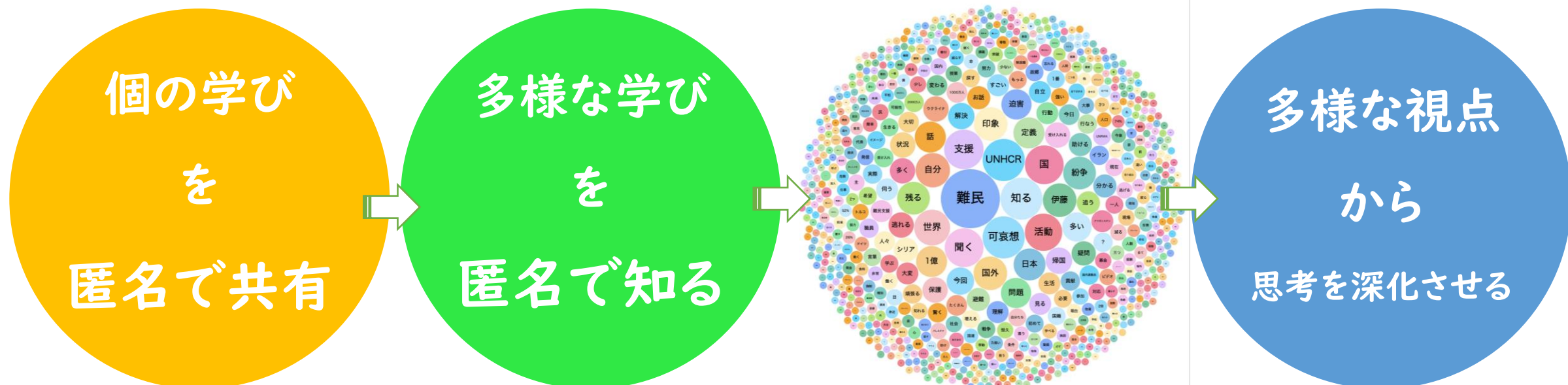
令和4年度  
児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要より  
(いじめ関連部分抜粋版) 令和5年10月4日公表文部科学省よりP5、P9



## その他関連資料2

高等学校現場での課題解決、「深い学び」のため「対話的学び」が重要  
深い学びを実現する協働学習ツール「AIAIモンキー」

不寛容から寛容へ 多様な意見・異なる価値観や学び、を受容する目指す授業



**国際支援に取り組む、活動でも活用**

国連や専門家、企業との国境を超えたパートナーシップ参加者の個の学びを可視化、心を育む深い学びと共感へ。  
平和的で、寛容な、包括的、安全で持続可能な世界の構築に率先して貢献するようになることを目指すGCED教育へ。

※Global Citizenship Education (地球市民教育)

## その他関連資料3 GCEDの目標

GCEDは、学習者が国際的な諸問題に向き合い、その解決に向けて地域レベル及び国際レベルで積極的な役割を担うようにすることで、平和的で、寛容な、包括的、安全で持続可能な世界の構築に率先して貢献するようになることを目指すものである。

具体的には、

- ・学習者が現実の問題を批判的に分析し、創造的、革新的な解決策を考えることを促す。
- ・主流の前提、世界観、勢力関係を再考し、制度的に十分に意見が反映されず、軽んじられている人々、グループについて考慮するよう支援する。
- ・必要な変化を起こすための個人的、集団的な行動への従事に焦点を当てる。
- ・学習環境にいない人々、コミュニティに属する人々、より広い社会の人々を含む多様なステークホルダーを巻き込む。

引用：文部科学省ホームページ GCED:Global Citizenship Education (地球市民教育)について



# その他関連資料4

## 18歳市民力を育成する社会科・公民科の系統的・総合的教育課程編成に関する研究 報告書 令和5年3月

### 世界と繋がり、国際社会における貧困や格差の問題を探究する授業実践

- 1 校種・教科・科目（分野） 高等学校・社会科・公共
- 2 単元名 フェアトレードの魅力について考える ～世界で活躍する人や企業から～
- 3 学習指導要領上の位置付け C（ア）持続可能な社会づくりの主体となる私たち
- 4 カリキュラムマップとの関連性 平和で安全な社会 多様性の尊重 市民の権利と責任

### 5 単元目標

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう力・人間性
公共の精神をもつ自立した主体となることを目指し、幸福・正義・公正などに着目することによって、現代の諸課題（SDGs）を理解している。	経済的概念や様々な資料を適切かつ効果的に活用しながら、現代の諸課題の解決に向けて考察している。また、考えたことを他者に伝えることを通して自分の考えを深化させている。	現代の諸課題について事実を基に協働して解決策を考察し、構想している。また、多様性を尊重した合意形成や社会参画を視野に入れないながら、自分ごととして諸課題を考察している。

### 6 単元の特徴（教材観）

日本の高校生にとって、SDGsへの理解は、グローバル化が進み地球規模での相互連結性が高まったことでより重要となっている。コロナ対応を含めて国境を超えて発生する諸問題や世界の出来事は、高校生にとって、遠く離れた別世界の話ではなく、自身の身近な生活で感じられるようになった。世界共通の価値観への対応や、世界規模で起きる戦争や貧困問題等への対応が、日本の政治面・経済面から求められるようになってきた。さらに、これらの影響を受けている日本国内の雇用や労働問題は、高校生にとって卒業後の職業選択・進路選択に繋がることから、関心の高い生徒は少なくない。

また、国内では、経済と安全保障を横断する領域で様々な問題が顕著化になり、経済の安全保障の実現に向けて国の取り組みが強化される時代となっている。このような現代社会において「18歳市民力」育成するためには、法・政治及び経済などの個々の学びにとどまらず、各領域を横断して総合的に探求することが欠かせない学習となっている。今後、予測不可能な未来を強く生きていくためには、常に幸福、正義、公正の視点などに着目し、自身の考えだけでなく、他者と協働して考察、構想し、課題解決に向けて取り組んでいく力が必要である。その一方で、全国の不登校の小中学生が過去最多となり、交友関係を築くことが得意ではない生徒が少なくないことや、社会参加の効力感を実感していない生徒の割合が増えていることから、これらの活動が容易ではない現状がある。そこで、他者の意見をもとに自らの思考を深化させる活動を行い、自分の思考をより明確に自覚させ、自ら学ぶ生徒を育成する。本単元では、私たちの実生活に大きな影響を与えている戦争や紛争から発生する国際問題「難民・貧困」について取り上げ、具体的な解決方法として、フェアトレードについて探究する。政治・経済の概念と関連させ、エシカル消費等の視点から考察を行い、思考を深化させる。

本単元の前半では、プライバシーを確保しながら個々の考察を可視化できる AIAI モンキー（協働学習ソフト）と、可視化した個々の考察をクラス内で共有できるエルモボード（電子黒板）を活用し、他者の意見から自らの意見を深化させたい。後半では、フェアトレードに取り組む専門家（中東ヨルダン・カンボジア貧困地域）と対話を行うため、ZOOM（オンラインビデオシステム）を活用し、リアリティのある授業に繋げたい。そして、日々の自らの消費行動を振り返り、持続可能な行動であるかどうかを考えさせる。エシカル消費の視点について、他者の意見と比較して自らの思考を深めさせたい。理想と現実問題の両面と向き合い、対話、協働学習を通して、「動機」や「自己肯定感」、「非認知能力」を向上させることで、「自分ごと」として考え、持続可能な社会に向けて自ら行動できる18歳市民となることを期待したい。

### 7 単元計画

時間	各時の問い	
	学習テーマ	学習内容
1時間	法・政治・経済などの側面を関連させ、フェアトレードについてまとめる活動	
1時間	世界の貧困問題の現状と課題の考察	○グループごとに国際社会における難民問題、貧困問題等の解決方法の一つとしての「フェアトレード」について調べ、グループごとに対話を通して論拠をもとに考察をまとめる。
1時間	論拠をもとに自分の考えを発表・説明し、自身の考えを深化させる活動	
1時間	フェアトレードの意義の共有と考察	○各グループの発表から、フェアトレードの意義を理解する。エシカル消費、持続可能な経済活動、等の視点も踏まえ、現実社会の問題点を確認し、他者の意見から考えを深化させる。
1時間	外部の専門家や関係諸機関などとの連携による学び・協働学習活動①	
1時間	教育・経済支援を考える	○中東ヨルダンと教室を繋ぎ、シリア難民・パレスチナ難民女性を雇用し、フェアトレード商品の制作販売に取り組む専門家（JICA シリア林芽衣氏）との対話活動から、探究する。
1時間	外部の専門家や関係諸機関などとの連携による学び・協働学習活動②	
1時間	教育・経済支援を考える	○カンボジア貧困地域と教室を繋ぎ、貧困家庭出身の女性を雇用し、「ものづくりを通した人づくり」をコンセプトに取り組むNPO法人との対話活動から探究する。

### 8 カリキュラム・マネジメント

本実践では、社会的な見方・考え方を総合的に働かせる活動を行い、特に国際社会における貧困や格差の問題を取り上げ、フェアトレードの現場を学ぶ。このことから、「家庭基礎」と関連付けたカリキュラムマネジメントが考えられる。具体的には、「C 持続可能な消費生活・環境」にて、自らの消費に大きな問題が潜んでいる可能性があることを知り、エシカル消費や社会的責任投資、ESG投資、フェアトレード商品などの持続可能な消費について探究する学びの部分が、本単元と直接的に繋がっていることから関連させることができる。本校ではカンボジア貧困地域の公立小学校へのマスク支援に教科・国境を超えて取り組んだ。

松野至(名古屋経済大学市邨高等学校)

# その他関連資料4 国連UNHCRグローバル難民フォーラム「宣言」提出

## 【「第2回グローバル難民フォーラム」日本から提出された宣言】

タイトル	内容	分野
<b>対話と交流による学習を通じた難民問題と貧困問題の解決へのアクション</b> 名古屋経済大学市邨高等学校	ICTを活用した双方向型の対話的な学びを通じて、パートナーシップ協定校（国立台湾鳳山商高校・埼玉県立越谷北高校）間の交流活動を強化し、専門家、地方公共団体や企業の協力を得て、世界の難民問題・貧困問題とその解決を目指す取り組みについて学び、さまざまな支援活動に参加し、問題の解決に貢献する。これにより生徒自身が持続可能な開発目標（SDGs）の各項目に横断的に取り組み、自己肯定感を高め、未来を切りひらく能力を開発する機会を創出する。	教育
<b>包摂指標による働きやすい企業の評価・啓発</b> [Welcome Japan就労分科会・包摂指標委員会] 認定NPO法人Living in Peace パーソルホールディングス株式会社 国立大学法人東京大学	組織が文化的多様性を価値と認識し、主体的な就労環境改善が推進される社会を創る。難民を含む外国にルーツを持つ人々の包摂をめざす職場環境評価指標「Cultural Diversity Index」で企業/法人の取り組みを認証する（目標：2024年に20法人を認証）。	就労 海外からの受け入れ
<b>亡命知識人としての包摂・育成</b> [Welcome Japan 教育分科会・「亡命知」委員会] 国立大学法人京都大学 合同会社madoromism	難民背景があり高度な専門性や技能を有する人々へのインタビューを行い、知見を広く発信し、セクターをこえて、日本における亡命知識層の新たな活動や仕組みを生み出す。勉強会やシンポジウムを定期的で開催し、研究者と実務家の協働を促進し、共生社会に向けたアイデアを共有する。多言語対応のメディアを運営し、難民をめぐる課題について議論する場、および研究者、実務家、難民当事者がそれぞれの問いや知的関心を共有し、協働によって見出される「知」を発信する。日本での「難民」イメージを刷新し、海外発信に向けたハブとする。	教育 意義ある難民の参加 文化 平和構築



# その他関連資料5 台湾でのユネスコ平和活動報告会実施 2023.12





# その他関連資料6 日本でのユネスコ平和活動報告会実施 2024.5.29~6.3



両国の生徒の平和活動活動報告会



両国生徒の裏千家茶道体験



名古屋市教育委員会表敬訪問(1)



両国の高校生の平和活動記念品交換



日本の高校の授業参加(主要5科目)



名古屋市教育委員会表敬訪問(2)



平和活動に取り組んだ生徒同士の文化交流(和服体験)



両国書道による平和交流



これからも皆さんと一緒に平和活動を続け  
両国の生徒による振り返り映像交換





# その他関連資料8 教育活動記事

## SDGs テーマに探究学習



SDGs（持続可能な開発目標）をテーマにした探究学習の実践例を紹介するオンラインセミナーが14日開かれた。ニュース時事能力検定を主催する毎日教育総合研究所と毎日新聞社が実施し、名古屋経済大市邨高校（名古屋市千種区）の松野至教諭(42)が講師となり、教育関係者ら約40人が参加した。

松野教諭は、新聞やニュースを教材に時事問題の授業を実践している。4年前の授業でシリア難民の幼児が地中海で水死した問題を取り上げたこ

とがきっかけとなり、生徒たちが「誰一人取り残さない世界の実現」というSDGsの目標達成のために何ができるかを考えるようになったという。

海外で難民支援に携わる日本人とオンライン勉強会を開くなど探究学習を進め、ヨルダンの難民キャンプやカンボジアの貧困地域に支援物資を届ける活動に取り組んだことも報告。松野教諭は「行動する生徒を育てるためには、教師も悩みながら一緒に探究していくことが大切だ」と強調した。

授業では、タブレット端末のソフトを活用して、生徒たちの意見を匿名で集約した結果、「普段は意見を言わない生徒が自由に討論するようになり、深い学びにつながった」と振り返った。

また、ロシアによる軍事侵攻で国外に避難しているウクライナ人を支援するため、難民問題を学んだ生徒の有志が名古屋市内で取り組む募金活動



難民支援の様子を紹介する名古屋経済大市邨高校の松野至教諭「ウェブ会議システム『Zoom』から14日

を映像を交えて紹介し、国境を超えて広がる探究学習の成果を説明した。

セミナーでは、毎日教育総合研究所のスタッフが、時事問題のテーマごとにSDGsの17目標が一目で分かるように編集されたニュース検定の公式テキストの活用法についても説明した。【尾崎敦



2022.3..28 毎日新聞朝刊

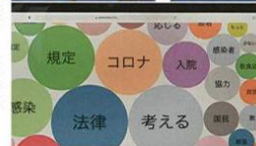
「ニュースも知らないから、意見もない」という状態だった生徒たちが、ニュースを学ぶことで「意見がこぼれ出てくる」ようになった。

本校の選択授業「時事問題」では、ニュース検定の公式テキストを教材にしています。テーマは安楽死や人気がアニメ「鬼滅の刃」の子どもの視聴、「コロナ禍」で休業要請に従わない飲食店への刑事罰など。授業ごとに一つの班がテーマをまとめて発表した後、クラス全員で議論します。理想は筆談を意見言い合うことですが、日本の学校は数人だけが意見し、大多数が「そう思う」と同調する構図になります。そのため授業ではタブレット端末を使い、氏名を表示せず

## 名経大市邨高教諭 松野至さん



に討論できる「A I A I モンキー」というツールを活用します。匿名になると、生徒たちは活発に意見を出します。クラス中にもさまざまな立場や意見があり、教室が社会の縮図だと



いつかには気付くのです。時事問題は二〇一五年に主権者教育として始めた授業です。選挙権が十八歳に引き下げられ、教諭の間では「社会を知らないのに大丈夫か」「生徒が選挙違反をするのでは」といった恐怖がありました。何とかして生徒と社会を結び付け、自分の考えを深めてもらおうと考案したのが新聞やニュースを題材にすることでした。三年生のうち約三割が授業を選択しますが、それ以外にもニュース検定を受検する生徒がいます。

海外でボランティア活動に取り組む卒業生がいるなど、学習はさらなる活動につながっています。一つの新聞記事にも違った意見があり、自分だけだと思っていた意見と同じ意見を持つ人がいる。そうすることで、多様性を認める優しさや、自分も誰かの役に立てるといった自己有用感が育まれるからだと思います。

## 主権者教育 社会の扉に

2021年4月6日(火) 中日新聞朝刊



おわりに

OECDは、Education2030にて、教育の目標を「個人と集団のウェルビーイングの実現」と掲げています。

国の2040年以降の社会を見据えた教育政策のあり方を示した「第4期教育振興基本計画」の基本方針1の目標2では、初等中等教育段階を主として定められたものとして「豊かな心の育成」があります。

子どもたちの自己肯定感・自己有用感の育成など、13の施策から構成されています。

具体的な施策の中には、子どもたちが達成感や成功体験を得ることや、課題に立ち向かう姿勢を身に付けられるよう、体験活動の充実を図ることが述べられています。

ICTが普及して、世界の問題を身近に学ぶことができるようになった今、学校現場では、どのような「気づき」への「導き」を実施していくべきでしょうか。

これからも、私自身、皆様と共に探究していきたいと思えます。

応援をいただいております、国連、専門家、地域の皆様、国内外の先生方、ありがとうございます。